

2011年度  
日本魚類学会年会  
プログラム

The 44th Annual Meeting, 2011

期日：2011年9月29日（木）－ 10月2日（日）  
場所：弘前大学 文京町キャンパス

日本魚類学会

*The Ichthyological Society of Japan*

# 2011 年度日本魚類学会タイムスケジュール

9 月 29 日 (木)

12:00-14:30 編集委員会：総合教育棟 2 階 大会議室

15:00-17:00 評議員会：総合教育棟 2 階 大会議室

9 月 30 日 (金)

口頭発表 <b>第 1 会場</b> 総合教育棟 401 講義室	08:00-	09:15-11:00		11:15-12:30		14:00-15:15		15:30-17:00	懇親会  大学生協 学生食堂
	口頭発表 <b>第 2 会場</b> 総合教育棟 301 講義室	受付	分類	休憩 総会 受賞者講演	休憩	分類	休憩	分類、系統	
			1-7			8-12		13-18	
ポスター発表 大学会館 3 階 大集会室	受付	09:15-11:00	昼休み	14:00-15:15	休憩	15:30-17:00			
		生態		形態、生理・組織		卵・稚仔			
		41-47		48-52		53-58			
		09:15-12:00		12:45-14:00	14:00-15:15				
		ポスター発表 (奇数番号自由発表)		休憩 コアタイム (奇数番号)	ポスター発表 (奇数番号自由発表)				

10 月 1 日 (土)

11:45-13:30 自然保護委員会：総合教育棟 2 階 大会議室

口頭発表 <b>第 1 会場</b> 総合教育棟 401 講義室	08:00-	09:00-10:15		10:30-12:00		14:00-15:00		15:15-17:15
	口頭発表 <b>第 2 会場</b> 総合教育棟 301 講義室	受付	卵・稚仔 分布・魚類相	休憩 総会 受賞者講演	昼休み	分子遺伝 分子解析	休憩	セッション
			19-23			24-29		30-33
ポスター発表 大学会館 3 階 大集会室	受付	09:00-10:15	休憩	10:30-12:00	休憩	14:00-15:30	休憩	15:45-17:00
		生態		生態、行動		行動、保全		保全
		59-63		64-69		70-75		76-79
		09:00-12:00		12:45-14:00	14:00-15:00			
		ポスター発表 (偶数番号自由発表)		休憩 コアタイム (偶数番号)	ポスター発表 (偶数番号自由発表)			

10 月 2 日 (日)

口頭発表 <b>第 1 会場</b> 総合教育棟 401 講義室	09:30-	10:00-11:45		13:00-16:00
	受付	シンポジウム 魚類をモデルとした 行動生態学研究の 最前線と今後の展望	休憩	シンポジウム 魚類をモデルとした行動生態学研究の 最前線と今後の展望

- 口頭発表 第 1 会場：総合教育棟 401 講義室
- 口頭発表 第 2 会場：総合教育棟 301 講義室
- ポスター発表会場：大学会館 3 階 大集会室
- 総会：総合教育棟 401 講義室
- 奨励賞受賞講演：総合教育棟 401 講義室
- オークション：総合教育棟 309, 310 講義室
- 休憩室：総合教育棟 315, 316, 317 講義室
- 懇親会：大学生協 学生食堂
- シンポジウム会場：総合教育棟 401 講義室

# 研究発表プログラム

## 口頭発表

(1 演題の持ち時間は、発表 12 分と質疑応答 3 分の計 15 分、共同発表者があるときは○が演者.)

### 口頭発表第 1 会場 (総合教育棟 401 講義室)

9 月 30 日 (金)

午前の部 09:15-11:00

(分類)

- 09:15- *Pentanchus profundicolus* の分類学的位置づけ  
○川内惇郎 (北大院水産)・仲谷一宏 (北大)・矢部 衛 (北大院水産)
- 09:30- ミサキウナギ *Muraenichthys aoki* (ウナギ目: ウミヘビ科) は有効種  
○日比野友亮・木村清志 (三重大院水実)・波戸岡清峰 (大阪市自博)・  
John E. McCosker(CAS)
- 09:45- ゼゼラの地理的変異  
○川瀬成吾・細谷和海 (近大院農)
- 10:00- 八重山諸島から得られたトウゴロウイワシ科ギンイソイワシ属の 1 未記載種  
○笹木大地・木村清志 (三重大院水実)
- 10:15- インドネシア沖インド洋から採集されたワニトカゲギス科トカゲハダカ属の 1 未記載種  
○山本みつ美・今村 央・矢部 衛 (北大院水産)
- 10:30- ソコダラ科ニホンソコダラ属とその近縁グループの分類学的再検討  
○中山直英・遠藤広光 (高知大理)
- 10:45- ベルリン自然史博物館に現存する日本産魚類標本資料 Langsdorff Collection について  
○滝川祐子 (香川大農)・吉野哲夫 (元琉球大理)

## 2011 年度 日本魚類学会学会賞

### 日本魚類学会奨励賞 受賞講演

「インド・太平洋における熱帯・亜熱帯性魚類の分類学的研究」

本村浩之 (鹿大総博)

日時 9 月 30 日 12:00 - 12:30

場所 第 1 会場 (総合教育棟 401 講義室)

### 日本魚類学会論文賞

「Cryptic diversification of the swamp eel *Monopterus albus* in East and Southeast Asia, with special reference to the Ryukyuan populations」

松本清二 (榎原昆虫館)・昆 健志・山口素臣・武島弘彦 (東大海洋研)・山崎裕治 (富山大)・  
向井貴彦 (岐阜大)・栗岩 薫 (国立科博)・幸田正典 (大市大理)・西田 睦 (東大海洋研)

「Unique occipital articulation with the first vertebra found in pristigasterids, chirocentrids, and clupeids (Teleostei: Clupeiformes: Clupeoidei)」

宮下雄博 (関西大倉高校)

午後の部 14:00-15:15

(分類)

- 8 14:00- 日本産ハリゴチ科魚類の分類学的再検討  
°永野優季・今村 央・矢部 衛 (北大院水産)
- 9 14:15- 土佐湾および九州-パラオ海嶺から得られたヒメキチジ属魚類の再検討  
°山川武 (高知市)・遠藤広光 (高知大理)
- 10 14:30- コウライキツネメバル *Sebastes ijimae* (カサゴ目:フサカサゴ科) の分類学的再検討  
°武藤望生 (京大院農)・甲斐嘉晃 (京大 FSERC)・野田 勉 (水研セ東北水研)・  
中坊徹次 (京大総博)
- 11 14:45- 北海道襟裳岬沖から採集されたカジカ科オキカジカ属の未記載種  
°稲川 亮・伊藤正木 (東北水研八戸)
- 12 15:00- “*Kyphosus sectatrix*”の再検討  
°坂井恵一 (のと海洋)・中坊徹次 (京大総博)

休憩 15:15-15:30

午後の部 15:30-17:00

(分類, 系統)

- 13 15:30- 鹿児島県から得られた特異な器官をもつゲンゲ科の未記載種  
篠原現人 (国立科博)
- 14 15:45- インド・西部太平洋におけるタイ科キチヌ類似種群の分類学的再検討  
岩槻幸雄 (宮崎大農)
- 15 16:00- カグラザメ目の系統学的再検討  
°須田健太 (北大院水産)・仲谷一宏 (北大)・矢部 衛 (北大院水産)
- 16 16:15- 形態形質から見たカワバタモロコとヒナモロコの類縁関係  
°井藤大樹 (近大院農)・星野和夫 (大分うみたまご)・武内啓明・細谷和海 (近大院農)
- 17 16:30- 解剖学的形質に基づくケツギョ科の類縁関係  
°田中大喜・佐々木美穂・武内啓明・細谷和海 (近大院農)
- 18 16:45- ミシマオコゼ科魚類の系統  
°Vilasri Veera・今村 央・矢部 衛 (北大院水産)

10月1日 (土)

午前の部 09:00-10:15

(卵・稚仔, 分布・魚類相)

- 19 09:00- ベトナム最北 Kalong 川河口域に出現したスズキ属仔稚魚  
°指田 穰 (沿岸生態系)・木下 泉・Tran Hau Duc (高知大海洋研)・  
Ta T. Thuy (ハノイ教育大・生物)・東 健作 (西日本科技研)
- 20 09:15- ベトナム北部におけるアユ仔魚の出現  
°Tran Hau Duc・木下 泉 (高知大海洋研)・Ta T. Thuy (Hanoi Nat. Univ. Edu.)・  
東 健作 (西日本科技研)

- 21 09:30- ヤマトシマドジョウ種群の地理分布と遺伝的変異  
 °中島 淳・中村朋史（福岡県保環研）・井上大輔（北九州高校）・鬼倉徳雄（九大院農）
- 22 09:45- 生息適地モデルからフクドジョウの集団構造を予測する  
 °横山良太（水研セ）・白川北斗・浦西茉耶・（北大院水産）・後藤 晃（北教大）
- 23 10:00- 相模川におけるスナヤツメ北方種の分布と生態  
 °勝呂尚之（神奈川水技セ内）・山崎裕治（富山大理）・細谷和海（近大院農）

休憩 10:15-10:30

**午前の部 10:30-12:00**

**（分布・魚類相，分子遺伝・分子解析）**

- 24 10:30- 日本列島の淡水魚類の進化・多様性形成に果たした琵琶湖の役割  
 °田畑諒一・柿岡 諒・小宮竹史・（京大院理）・富永浩史（関西学院高）・渡辺勝敏（京大院理）
- 25 10:45- 日本近海に見られるカラフトシシャモ  
 °小西雅樹・細谷和海（近大院農）
- 26 11:00- ニューカレドニア海域のカレイ目魚類相の特徴  
 °尼岡邦夫（北大）・河合俊郎（北大総合博）・三原栄次（稚内水試）
- 27 11:15- 洋上 222 年の孤独 ～ 絶海の無人島群，豆南諸島の魚類相と生物地理  
 °栗岩 薫・千葉 悟・松浦啓一（国立科博）
- 28 11:30- アイナメ系雑種の正体は，雑種生殖集団による戻し交配でした  
 五十嵐理人・堀田海帆・植松孝昌・°宗原弘幸（北大 FSC 白尻）
- 29 11:45- アイナメ属雑種 2 系統の起源と形成過程  
 °堀田海帆（北大院環）・木村幹子（対馬市役所）・宗原弘幸（北大 FS セ）

**午後の部 14:00-15:00**

**（分子遺伝・分子解析）**

- 30 14:00- 機能ゲノミクスから探る局所適応：ハリヨにおけるゲノムワイド遺伝子発現の集団間変異  
 °小北智之・山元麻由美（福井県立大）・北野 潤（国立遺伝研）・森 誠一（岐阜経済大）
- 31 14:15- タモロコ属魚類の湖沼適応の遺伝基盤の探索：次世代シーケンサーを利用した sRAD マーカーによる連鎖地図作成と QTL 解析  
 °柿岡 諒（京大院理）・小北智之・熊田裕喜（福井県立大）・渡辺勝敏（京大院理）・奥田 昇（京大生態研）
- 32 14:30- 日本産淡水魚類の DNA 分類の試み  
 °渡辺勝敏・田畑諒一（京大院理）・富永浩史（関西学院高）・高橋 洋（水大校）
- 33 14:45- ゲノム情報を用いた汎用的マイクロサテライトマーカーの開発とその利用  
 °後藤 亮・半澤直人（山形大理）

休憩 15:00-15:15

## セッション 15:15-17:15

(ミトコンドリアゲノミクスにもとづく魚類の系統進化研究：成果と展望)

- 34 15:15- 魚類のミトコンドリア進化ゲノミクス：10年の軌跡と到達点  
°宮 正樹 (千葉中央博)・西田 睦 (東大大気海洋研)
- 35 15:45- ミトコンドリアゲノム全長塩基配列にもとづくヨウジウオ亜目魚類の系統解析：  
亜目の枠組みと内部の系統関係  
°ソン ハヨン・馬淵浩司 (東大大気海洋研)・佐藤 崇 (国立科博)・  
宮 正樹 (千葉中央博)・西田 睦 (東大大気海洋研)
- 36 16:00- ミトコンドリアゲノム全長配列によるハゼ亜目魚類の分子系統解析：  
幼形進化的シラスウオ属魚類の起源を中心に  
°昆 健志 (東邦大理)・宮 正樹・佐土哲也 (千葉中央博)・  
Lukas Rüber (Nat. Hist. Mus., London)・中谷将典 (東大大気海洋研)・  
佐藤 崇 (国立科博)・吉野哲夫 (沖縄県宜野湾市)・西田 睦 (東大大気海洋研)
- 37 16:15- ミトコンドリアゲノム全長塩基配列にもとづくフグ目魚類の系統解析：姉妹群探索から淡  
水種の起源推定まで  
°山野上祐介 (東大水実)・宮 正樹 (千葉中央博)・松浦啓一 (国立科博)・  
酒井治己 (水大校)・西田 睦 (東大大気海洋研)
- 38 16:30- 魚類のミトコンドリアゲノムにおける遺伝子配置の多様性とその進化  
°佐藤 崇 (国立科博)・宮 正樹 (千葉中央博)・馬淵浩司・西田 睦 (東大大気海洋研)
- 39 16:45- ミトコンドリアゲノム全長配列に基づく魚類の分岐年代推定  
°井上 潤 (東大大気海洋研)・宮 正樹 (千葉中央博)・西田 睦 (東大大気海洋研)
- 40 17:00- 魚類のミトコンドリア進化ゲノミクス：今後の展望  
°西田 睦・武島弘彦・馬淵浩司 (東大大気海洋研)・宮 正樹 (千葉中央博)

## 口頭発表第2会場 (総合教育棟 301 講義室)

9月30日 (金)

午前の部 09:15-11:00

(生態)

- 41 09:15- 福井県三方湖周辺水域におけるフナ地域個体群の種内系統構成  
°武島弘彦 (東大大気海洋研)・松崎慎一郎 (国環研)・児玉晃治 (福井県水試)・  
前田英章 (福井県海浜自然セ)・西田 睦 (東大大気海洋研)
- 42 09:30- モツゴ *Pseudorasbora parva* が高密度で生息する池で観察された集団産卵行動  
°芦澤 淳・藤本泰文 (伊豆沼財団)
- 43 09:45- ヒナインドジョウの底質選好性および異なる底質下での肥満度の変化  
°川西亮太・土肥竜太・藤本明日香・井上幹生 (愛媛大院理工)
- 44 10:00- ニッポンバラタナゴの成長にともなう食性の変化と腸の発達  
°橋本拓也 (近大農)・山野ひとみ・細谷和海 (近大院農)
- 45 10:15- 山陰沖日本海におけるフリソデウオ科魚類 *Trachipterus* sp. の混獲実態，成熟および食性  
°和田年史 (鳥取県博)・宇野政美 ((有)釜屋大敷)

- 46 10:30- 沖縄島近海におけるホウライヒメジとコバンヒメジの年齢, 成長および成熟  
°鮫島翔太 (琉大院理工)・立原一憲 (琉大理)
- 47 10:45- 飼育下におけるエゾイソアイナメの繁殖生態  
°松崎浩二・日比野麻衣・森 俊彰 (ふくしま海洋科学館)

**午後の部 14:00-15:15**

**(形態, 生理・組織)**

- 48 14:00- ジンベエザメの全長計測について  
°松本瑠偉・松本葉介 (美ら海水族館)・内田詮三 (海洋博研セ)
- 49 14:15- トラザメ *Scyliorhinus torazame* の網膜神経節細胞  
°六車香織・山本直之 (名大生命農)
- 50 14:30- 蛍光色素 DiAsp を用いた感丘の生体染色法  
°中江雅典 (国立科博)・朝岡 隆 (高知大院理)・和田浩則 (JST さきがけ)・  
佐々木邦夫 (高知大理)
- 51 14:45- 南日本集団琉球型のメダカに見られた形態的特異性  
°朝井俊亘 (近大院農)・瀬能 宏 (神奈川県博)・細谷和海 (近大院農)
- 52 15:00- 琵琶湖深部で採集されたウツセミカジカの外部形態と生殖周期  
°田原大輔・岩瀬美和子 (福井県大)

休憩 15:15-15:30

**午後の部 15:30-17:00**

**(卵・稚仔)**

- 53 15:30- 有明海, 諫早湾潮受堤防内の調整池でのエツの再生産  
°木下 泉 (高知大海洋研)・藤田真二 (西日本科技研)・石田 晃・  
竹内啓悟 (高知大海洋研)
- 54 15:45- エゾホトケドジョウの発育段階区分  
°森下 匠・北川哲郎・細谷和海 (近大院農)
- 55 16:00- 沖縄島の河川に生息する両側回遊性のミミズハゼ属の一種  
°前田健 (OIST)・近藤正 (琉大院理工)・花原 (山崎) 望 (宮古島市総合博物館)・  
立原一憲 (琉大理)
- 56 16:15- 飼育条件下におけるウマヅラアジの仔稚魚の形態発育  
°岡慎一郎 (海洋博研セ)・踊場秀兵 (美ら海水族館)
- 57 16:30- 日本海北部におけるアカムツ着底稚魚の分布と食性  
°八木佑太・井関智明・梶原直人・内川和久・上原伸二 (水研セ日水研)・  
藤井徹生 (水研セ本部)
- 58 16:45- 30 数年前の諫早湾本明川河口域に出現した仔稚魚  
°竹内啓悟・木下 泉 (高知大海洋研)・柴崎賀広 (長崎水総研)・  
川村嘉応 (佐賀有明水振セ)・八木佑太 (日水研)・青山大輔 (総合水研)・  
藤田真二 (西日本科技研)

## 10月1日(土)

### 午前の部 09:00-10:15

#### (生態)

- 59 09:00- 河川内における密度依存的なサケ稚魚の成長と競争様式  
°長谷川 功・大熊一正(北水研)・平間美信(北水研千歳さけます事業所)・  
大貫 努(北水研)
- 60 09:15- 琵琶湖南湖におけるブルーギルの年齢と成長  
池田裕司・°淀 太我・吉岡 基(三重大院生資)
- 61 09:30- 沖縄島漫湖におけるスナゴハゼとマサゴハゼの成長と成熟  
°西丸裕敏(琉大院理工)・前田 健(OIST)・近藤 正(琉大院理工)・  
立原一憲(琉大理)
- 62 09:45- ゴクラクハゼにおける回遊パターンの多様性  
°石崎大介(三重大院生資)・向井貴彦(岐阜大地域)・淀 太我(三重大院生資)
- 63 10:00- 産卵床を運ぶ?魚  
°坂上治郎(サザンマリラボ)・鈴木寿之(兵庫県立川西緑台高)・  
渋谷浩一(長尾自然環境財団)

### 休憩 10:15-10:30

### 午前の部 10:30-12:00

#### (生態, 行動)

- 64 10:30- エイ類の呼吸における第5鰓弓の特殊機能  
富田武照(北大総合博)・°戸田 実(海洋博研セ)・山本雄士(北大院水産)・  
植田啓一・内田詮三(海洋博研セ)・仲谷一宏(北大)
- 65 10:45- 京都府由良川水系産メダカ南北集団の遊泳層の比較  
°魚野 隆・濱口昂雄・細谷和海(近大院農)
- 66 11:00- グループ内体長組成の決定因子:なぜクマノミ類は雄性先熟か?  
服部昭尚(滋賀大教育数理情報)
- 67 11:15- クレナイニセスズメの双方向性転換  
°桑村哲生(中京大国際教養)・門田 立(水研セ西海水研)・  
鈴木祥平(琉球大亜熱帯島嶼科学)
- 68 11:30- シワイカナゴではどんな雄が縄張り形成するか -異なる体長グループに分けた場合-  
°成田英毅(東海大院海洋)・赤川 泉(東海大海洋)・宗原弘幸(北大FSセ)
- 69 11:45- Diversity and distribution of parrotfishes on a lek-like spawning aggregation site  
Terry Donaldson (University of Guam Marine Laboratory)

午後の部 14:00-15:30

(行動, 保全)

- 70 14:00- 飼育下における底生魚の発光観察 –エゾイソアイナメ, マルアオメエソの例–  
°藤井千春 (岩手県博)・山内信弥 (アクアマリンふくしま)・  
猿渡敏郎 (東大大気海洋研)
- 71 14:15- 階段式魚道隔壁周辺の流れにおける流況と魚類の遊泳行動  
°村岡敬子・中西 哲・三輪準二 (独法土研)
- 72 14:30- コクチバス親魚の産卵床保護行動  
°相澤 康・勝呂尚之 (神奈川水技セ内)
- 73 14:45- 伊豆沼・内沼における繁殖抑制に焦点をあてた防除活動によるオオクチバスの減少と  
魚類相の回復  
°藤本泰文 (伊豆沼財団)・高橋清孝 (シナイモツゴ郷の会)・進東健太郎 (伊豆沼財団)・  
藤原 健 (宮城水セ)・有田康一 (国環研)・斉藤憲治 (中央水研)・  
嶋田哲郎 (伊豆沼財団)
- 74 15:00- 本州東部の日本海側流入河川で見出された国内移入のカジカ小卵型  
°塚越英晴 (北大院水産)・坂井恵一 (のと海洋ふれあいセンター)・  
山本邦彦 (いしかわ動物園)・後藤 晃 (北教大)
- 75 15:15- イワナ, ヤマメへの餌供給からみた溪畔林の管理手法の提言  
中村智幸 (水研センター)

休憩 15:30-15:45

午後の部 15:45-16:45

(保全)

- 76 15:45- Reproduction of the *Cobitis striata* complex Kyushu form (Teleostei: Cobitidae)  
°Kim Eun-Jin (Kyushu University)・中島 淳 (福岡県保環研)・  
鬼倉徳雄 (九大院農)
- 77 16:00- 奈良県産ニッポンバラタナゴの保護  
°池田昌史 (近大院農)・杉本智嗣・岡田龍也・川上拓人・梅木佑亮 (近大農)・  
高田啓介 (信大理)・北川忠生 (近大院農)
- 78 16:15- 九州で流通しているメダカの遺伝的特徴  
°中井宏施・北川忠生 (近大院農)
- 79 16:30- ヒメダカの体色がメダカにあたる生態学的影響  
°中尾遼平 (近大院農)・伊田勝飛 (近大農)・北川忠生 (近大院農)

## ポスター発表

(ポスターは発表初日の9月30日午前9時までに指定の場所に貼附し、2日間掲示する。  
奇数演題のコアタイムは9月30日12:45-14:00、偶数演題は10月1日12:45-14:00.)

### ポスター発表会場 (大学会館3階大集会室)

- 80 コイ科魚類オイカワ属とその近縁種に関する骨学的研究  
°宮田真也 (早大院・創造理工)・藪本美孝 (北九州自然史博)・平野弘道 (早大・教育)
- 81 シビレエイ亜目魚類の比較解剖学的研究  
°山本雄士・矢部 衛 (北大院水産)
- 82 北浦の沿岸帯で採集されたハゼ科2種の仔稚魚の形態と季節的出現  
°百成 渉・碓井星二・加納光樹・中里亮治 (茨城大水圏セ)・荒山和則 (茨城内水試)
- 83 カワアナゴ科カワアナゴにおける側線系とその神経支配—特に頬部感丘列と感丘の方向性について  
°朝岡 隆 (高知大院理)・佐々木邦夫 (高知大理)
- 84 ソコギス科2属の骨学的研究  
°兼平奈緒子・今村 央・矢部 衛 (北大院水産)
- 85 飼育下におけるヌエハゼの繁殖  
°園山貴之 (下関水族館)・荒尾一樹 (三河淡水生物)・石橋敏章 (下関水族館)
- 86 Myology of pectoral fin in lizardfishes (Aulopiformes: Synodontidae)  
°Chaiyapo Monruedee・今村 央・矢部 衛 (北大院水産)
- 87 愛媛県重信川流域におけるヒナイシドジョウの形態学的変異  
°藤井明日香・川西亮太・土肥竜太・井上幹生 (愛媛大院理工)・清水孝昭 (愛媛水研セ)
- 88 日本近海のサケガシラ属 *Trachipterus* 魚類の形態と学名の検討  
°佐藤圭一 (沖縄美ら海水族館)・尼岡邦夫 (北大)・戸田 実 (海洋博研究センター)
- 89 太平洋から初めて記録されたアシロ科の稀種 *Barathrites iris*  
°大橋慎平・今村 央・矢部 衛 (北大院水産)
- 90 ヘリシロウツボ *Gymnothorax albimarginatus* の鞍状斑を持つ個体は幼魚か別種か—DNA 判別と葉形仔魚の形態—  
°田和篤史 (九大院農)・内海遼一 (和歌山県)・小早川みどり (九大システム生命)・望岡典隆 (九大院農)
- 91 アバチャン (クサウオ科: スイショウオ属) に見られる形態的変異  
°東海林 明 (京大院農)・甲斐嘉晃 (京大フィールド研)・上田祐司 (日水研)・中坊徹次 (京大総博)
- 92 日本産ホウボウ科カナガシラ属魚類の分類学的再検討  
°大野明宏 (北大院水産)・河合俊郎 (北大総合博)・矢部 衛 (北大院水産)
- 93 北日本の太平洋岸沖から採集されたカサゴ目クサウオ科の1未記載属  
°井上明生 (高知大院理)・遠藤広光 (高知大理)
- 94 知床羅臼の深層水ポンプで得られたクサウオ科インキウオ属の1未記載種および日本初記録種の *Careproctus ostentum*  
°町 敬介 (富山水研)・野別貴博 (知床財団)・矢部 衛 (北大院水産)
- 95 忘れられたコチ科魚類 *Platycephalus clavulatus* の分類学的位置付け  
°長尾太地・今村 央・矢部 衛 (北大院水産)
- 96 高知県から採集されたハゼ科ヨリメハゼ属の1未記載種とハゼ科魚類  
°片山英里・野川悠一郎・遠藤広光 (高知大理)

- 97 高知県宿毛市沖の島から採集されたハタ科 *Suttonia* 属の 1 未記載種  
 ° 剣物健太 (高知大院理)・遠藤広光 (高知大理)
- 98 スズメダイ *Chromis notata* の地理的形態変異とキホシスズメダイの分類学的位置づけ  
 ° 岩坪洸樹 (鹿大院水産)・山川 武 (高知市)・本村浩之 (鹿大総博)
- 99 鹿児島県硫黄島・竹島におけるテンジクダイ科魚類相  
 ° 吉田朋弘 (鹿大院水産)・出羽慎一 (海案内)・古田和彦 (海工房)・本村浩之 (鹿大総博)
- 100 パラオで採集されたハゼ科ヒトミハゼ属の 1 未記載種  
 渋川浩一 (長尾自然環境財団)・鈴木寿之 (兵庫県立川西緑台高)・  
 坂上治郎 (Southern Marine Laboratory)
- 101 日本沿岸域におけるハタンボ属魚類の分布  
 ° 小枝圭太 (琉大院理工)・吉野哲夫・今井秀行・立原一憲 (琉大理)
- 102 太平洋産オオイトヒキイワシの形態学的特徴  
 ° 遠藤広光 (高知大理)・中山直英 (高知大院理)・三宅崇智 (エコー)
- 103 マルキーズ諸島から得られたフサカサゴ科ミノカサゴ属の 1 未記載種  
 ° 松沼瑞樹 (鹿大連農)・本村浩之 (鹿大総博)
- 104 日本初記録のヘビギンポ科魚類 *Enneapterygius erythrosomus* Shen, 1994  
 ° 目黒昌利 (鹿大院連大)・本村浩之 (鹿大総博)
- 105 ムネエソ科ムネエソ亜科ハウネンエソ属の 1 種  
*Polyipnus latirastrus* Last and Harold, 1994 の世界 2 例目の報告  
 ° 竜田直樹 (北大院水産)・遠藤広光 (高知大理)・矢部 衛 (北大院水産)
- 106 南シナ海インドネシア西カリマンタン島沖で採集されたタイ科ヘダイ属の 1 未記載種  
 ° 田中文也 (宮崎大院農)・岩槻幸雄 (宮崎大農)
- 107 日向灘で採集されるイトウダイ科アカマツカサ属の 1 未同定種  
 ° 三木涼平・岩槻幸雄 (宮崎大農)
- 108 キホウボウ科魚類の系統関係  
 ° 河合俊郎 (北大総合博)・高田陽子 (大阪自然史博)・佐藤 崇 (国立科博)
- 109 フナ種群 *Carassius auratus-complex* における主要系統のさらなる探索  
 ° 高田未来美 (東大)・酒井治巳・高橋 洋 (水大校)・井口恵一朗・横山良太 (水研セ)・  
 渡辺勝敏・柿岡 諒 (京大)・伊藤 明 (JIRCAS)・山崎裕治 (富山大)・  
 張 春光・趙 亜輝 (中国科学院)・S. F. Safronov (サハリン州立大)・V. G. Sideleva  
 (ロシア科学アカデミー)・立原一憲 (琉大)・後藤 晃 (北教大)・西田 睦 (東大)
- 110 ミトゲノム解析に基づくコイ科ウグイ亜科魚類の系統地理  
 ° 井元順一 (山形大院理工)・斉藤憲治 (中央水研)・佐々木 剛 (東京農大農)・  
 足立 淳 (統計数理研)・Kartavtsev Yuri (ロシア海洋生物研)・宮 正樹 (千葉中央博)・  
 西田 睦 (東大大気海洋研)・半澤直人 (山形大院理工)
- 111 アジ科カイワリ属の有効性と他属との類縁性  
 ° 木村清志・安井伸太郎 (三重大院水実)・栗岩 薫 (国科博)
- 112 関東地方に生息する淡水魚種の分子系統的由来調査  
 高村健二 (国立環境研)
- 113 ツマグロカジカ属の分子系統関係と生物地理  
 ° 山崎 彩 (北大院環)・Markevich Alexander (ロシア科学アカデミー)・  
 山村織生 (水研セ)・宗原弘幸 (北大 FS セ)
- 114 マイクロサテライト隣接領域の一塩基多型を用いたコイの在来系統の識別  
 ° 馬淵浩司・ソン ハヨン・武島弘彦 (東大大気海洋研)・中井克樹 (琵琶湖博)・  
 瀬能 宏 (神奈川県博)・西田 睦 (東大大気海洋研)

- 115 スジハゼ3タイプの遺伝的差異とそれにもとづく簡易判別法の開発  
 °松井彰子・中山耕至・甲斐嘉晃・山下 洋（京大フィールド研）
- 116 ミトコンドリア DNA から推定されたウミタナゴ属魚類の遺伝的差異  
 °片淵弘志（環境生物研究所）・甲斐嘉晃（京大フィールド研）・中坊徹次（京大総博）
- 117 ジュズカケハゼ種群の分布と遺伝的多様性  
 °千葉 悟（国立科博）・渋川浩一（長尾財団）・向井貴彦（岐阜大地域）・  
 半澤直人（山形大理）
- 118 クロサギ科の種分化と分散—インド - 西部太平洋における種を中心にして—  
 °林田奈々・岩槻幸雄（宮崎大農）・田中文也（宮崎大院農）
- 119 日本海—太平洋をめぐる底生性魚類の分散と分断  
 °甲斐嘉晃（京大フィールド研）・上田祐司・藤原邦浩（日水研）・伊藤正木（東北水研）・  
 中坊徹次（京大総博）
- 120 瀬戸内海の汽水域における希少ウキゴリ属4種の分布パターンと流域特性  
 °乾 隆帝・竹村紫苑（徳島大院工）・鬼倉徳雄（九大院農）・鎌田磨人（徳島大院工）
- 121 岐阜県長良川におけるヨシノボリ類の mtDNA 系統と色斑的特徴の不一致  
 向井貴彦（岐阜大地域）
- 122 鹿児島県大隅諸島におけるスズメダイ科魚類相  
 °西山 肇・岩坪洗樹（鹿大院水産）・本村浩之（鹿大総博）
- 123 生態系エンジニアとしてのカワヤツメ幼生の生息適地の環境変化に伴う変遷を予測する  
 °白川北斗・浦西茉耶（北大院水産）・横山良太（水総研）・後藤 晃（北教大）
- 124 標本記録に基づく1960年代の潤沼の魚類相  
 °金子誠也・百成 渉・碓井星二・加納光樹（茨城大水圏セ）・増子勝男（茨城県自然博）・  
 鎌田洗一（水戸市博）
- 125 静岡県下田市大浦湾のアマモ場および砂底地における魚類相の変化—36年前との比較—  
 °竹内直子（東海大海洋）・瀬能 宏（神奈川生命）・青木優和（東北大院農）
- 126 マレーシア・サバ州の海産魚類相とその保全について  
 Manjaji-Matsumoto B. Mabel（ボルネオ海研）・°本村浩之（鹿大総博）・  
 荻原豪太（鹿大連農）・Jumin Rebecca（WWF マレーシア）
- 127 メコン・チャオプラヤ河流域における魚類分布実態調査と標本コレクション構築  
 °渋川浩一（長尾財団）・Musikasinthorn Prachya（カセサート大）・  
 Grudpan Chaiwut（ウボン大）・Praxaysombath Bounthob（ラオス国立大）・  
 So Nam（カンボジア水産局）・Tran Dinh Dac（カントー大）・打木研三（長尾財団）
- 128 農業水利用が淡水魚分布に与える影響  
 °山本麻菜実・神田 猛（宮崎大院農）・藤倉佑治（二見シーパラダイス）
- 129 ドロクイ仔稚魚の出現と形態—沖縄の食卓に並ぶ“いまいゆ”  
 °上原匡人（琉球大院理工）・立原一憲（琉球大理）
- 130 ベトナム北部の河口域における仔稚魚相  
 °Ta T. Thuy（ハノイ教大）・Tran Hau Duc・木下 泉（高知大海洋研）・  
 指田 穰（沿岸生態リサーチ・セ）・東 健作（西日本科技研）
- 131 ハリセンボン科4種の卵および仔魚  
 土井啓行・山ノ内祐子・石橋敏章（下関水族館）・山野上祐介（東大水実）・  
 °酒井治己（水大校）
- 132 ヨウジウオ瀬戸内海個体群における繁殖および生理的コンディションの季節変化  
 °曾我部 篤・毛利紀恵・小路 淳（広島大院生物圏）

- 133 カジカ大卵型の炭素・窒素安定同位体比を指標とした岩木川水系の物質循環の変化  
 °村元寛子 (弘前大院農生)・笠井亮秀 (京都大院農)・東 信行 (弘前大院農生)
- 134 生息域を共有する希少な底生魚二種の食性比較  
 °齋田孝晴 (千科大危機管理)・鶴田哲也 (大阪産大人間環境)・  
 安房田智司 (新潟大理臨海)・武島弘彦 (東大大気海洋研)・井口恵一朗 (水研セ増養殖研)
- 135 オショロコマの夜行性戦術における餌資源の役割  
 °田中友樹 (北大 環境科学院)・小泉逸郎 (北大 創成研)
- 136 タンガニイカ湖におけるアカメ科魚類 *Lates stappersii* 未成魚の成長  
 °福岡佑太・木村清志 (三重大学水産実験所)
- 137 イトヨ太平洋型における生活史多型と生活史分岐機構  
 °北村武文 (北大院水産)・後藤 晃 (北教大)
- 138 サンゴタツの初期餌料の研究—ワムシとアルテミア—  
 °高橋理絵・則竹わかば・長谷川とも恵 (東海大海洋)・鈴木宏易 (東海大海洋博)・  
 大谷昭範 (マリンピア松島)・赤川 泉 (東海大海洋)
- 139 アユカケおよびカジカ中卵型の稚魚遡上経路と遊泳速度  
 °岩崎雄介・田原大輔 (福井県大)
- 140 大倉川におけるアマゴ *Oncorhynchus masou ishikawae* の生息地選択と移動実験  
 °齋藤竜也・沼澤匠究・相原広太・檜島弘隆 (東海大海洋)・川嶋尚正・  
 鈴木邦弘 (静岡水技研)・赤川 泉 (東海大海洋)
- 141 静岡市におけるカムルチーの生態—成長と成熟  
 °佐藤拓也・本橋 快 (東海大海洋)・福井正志 (サンシャイン水族館)・  
 赤川 泉 (東海大海洋)
- 142 耳石及び筋肉組織の微量元素分析を用いた汽水湖十三湖における魚類の移動履歴と生息場利用  
 °茂古沼佑介・出村国光 (弘前大院農生)・大竹二雄 (東大大気海洋研)・  
 渡邊 泉 (東京農工大農)・東 信行 (弘前大院農生)
- 143 ヒナインドジョウによる河床間隙域利用の季節変化  
 °土肥竜太・川西亮太・藤井明日香・井上幹生・三宅 洋 (愛媛大院理工)
- 144 淡水魚類における低酸素耐性：冠水頻度が異なるワンド群における魚類相形成過程の  
 解明に向けて  
 °久米 学 (岐経大/土研共生セ)・永山滋也・小野田幸生・森 照貴・  
 萱場祐一 (土研共生セ)
- 145 ウナギ *Anguilla japonica* の飼育下における摂餌行動  
 °後藤寛史・塚田敦志・石原裕斗・長岐 潤・赤川 泉 (東海大海洋)
- 146 モツゴ当歳魚の成長と水中の低酸素  
 °佐原雄二・石岡奈々子 (弘前大農生)
- 147 耳石微量元素分析を用いた底生深海魚の生態研究  
 °佐久間 啓・白井厚太郎・小島茂明 (東大大海研)
- 148 Sneak-guard モデルの再検討：なぜスニーカーは精巣への投資が多いのか？  
 °太田和孝 (京大理)・幸田正典 (大阪市大理)・堀 道雄 (京大理)・  
 佐藤 哲 (長野大環境ツ)
- 149 同所的トミヨ属魚類2種の巣作り行動の遺伝様式  
 高橋 洋 (水大校)
- 150 ハナハゼ *Ptereleotris hanae* のペアボンドと行動の性的二型  
 尾花由樹・鈴木翔子 (東海大海洋)・岩瀬文人 (黒潮生物研究所)・中野正夫 (Seahorse)・  
 °赤川 泉 (東海大海洋)

- 151 河川感潮域に生息するメダカ *Oryzias latipes* の潮汐周期活動  
 °井上貴裕・佐原雄二（弘前大院農生）
- 152 タナゴ類の二枚貝選好性および種間競争に関する研究  
 滝口 晃（農工大院農）
- 153 モデルを使ったサンゴタツの巻きつき行動実験—集まるのか，離れるのか—  
 石崎大樹・高橋大樹（東海大海洋）・°鈴木宏易（東海大海洋博）・  
 大谷明範（松島マリンピア）・赤川 泉（東海大海洋）
- 154 写真による個体識別を用いた底生魚生息環境整備効果の検証  
 °宮島泰志・安形仁宏・宮崎 太・堀田大貴（建設技術研究所）・  
 中山雅文（国土交通省長崎河川国道事務所）・村岡敬子・山下慎吾（土木研究所）
- 155 福井県中池見湿地におけるホトケドジョウの保護にむけた取り組み  
 °北川哲郎・森下 匠（近大院農）・増田 茂（中池見ねっと）・細谷和海（近大院農）
- 156 矢作川における水利用がアユの生息におよぼす影響について（予察）  
 山本敏哉（矢作研）
- 157 忘れられた，絶滅の危機に瀕する地域個体群 「涸沼ニシン」 -現存する情報のレビュー-  
 °猿渡敏郎（東大大海研）・小藤一弥（大洗水族館）・増子勝男（茨城県自然博）
- 158 冬季の水温がウシモツゴの生殖腺発達に及ぼす影響  
 °北野 忠（東海大教養）・大仲知樹（犬山里山学研）・古屋康則（岐阜大教育）
- 159 ギバチの個体数におよぼす堰の影響  
 °荒木友子・藤岡正博（筑波大生命環境科学）
- 160 北浦のヨシ帯における仔稚魚の生息場所利用パターン  
 °碓井星二・加納光樹・百成 渉（茨城大水圏セ）・荒山和則（茨城内水試）
- 161 朱太川氾濫原（北海道南西部）の一時的止水域における淡水魚類の空間分布  
 °宮崎佑介・照井 慧・吉岡明良・鷲谷いづみ（東大院農）
- 162 北川河口域友内川におけるアマモ場とアカメの生息状況  
 神田 猛（宮崎大農）・°福岡亮輔（宮崎大院農）・山本陽平（ブロードリーフ）
- 163 水田を利用したゲンゴロウブナの初期育成  
 °亀甲武志・根本守仁・藤岡康弘（滋賀水試）・甲斐嘉晃（京大フィールド研）
- 164 琉球大学理学部海洋学科所蔵標本の移管と新管理体制の構築  
 °宮本 圭（海洋博研セ）・吉野哲夫（元琉球大理）・岡 慎一郎・戸田 実（海洋博研セ）

# 2011年度 日本魚類学会シンポジウム

会 場：第1会場（弘前大学文京町キャンパス 総合教育棟 401 講義室）

日 時：2011年10月2日（日）10:00～16:00

## 魚類をモデルとした行動生態学研究の最前線と今後の展望

### Behavioral ecology of fishes: recent studies and future perspective

コンビーナー：安房田智司（新潟大理臨海）・桑村哲生（中京大国際教養）

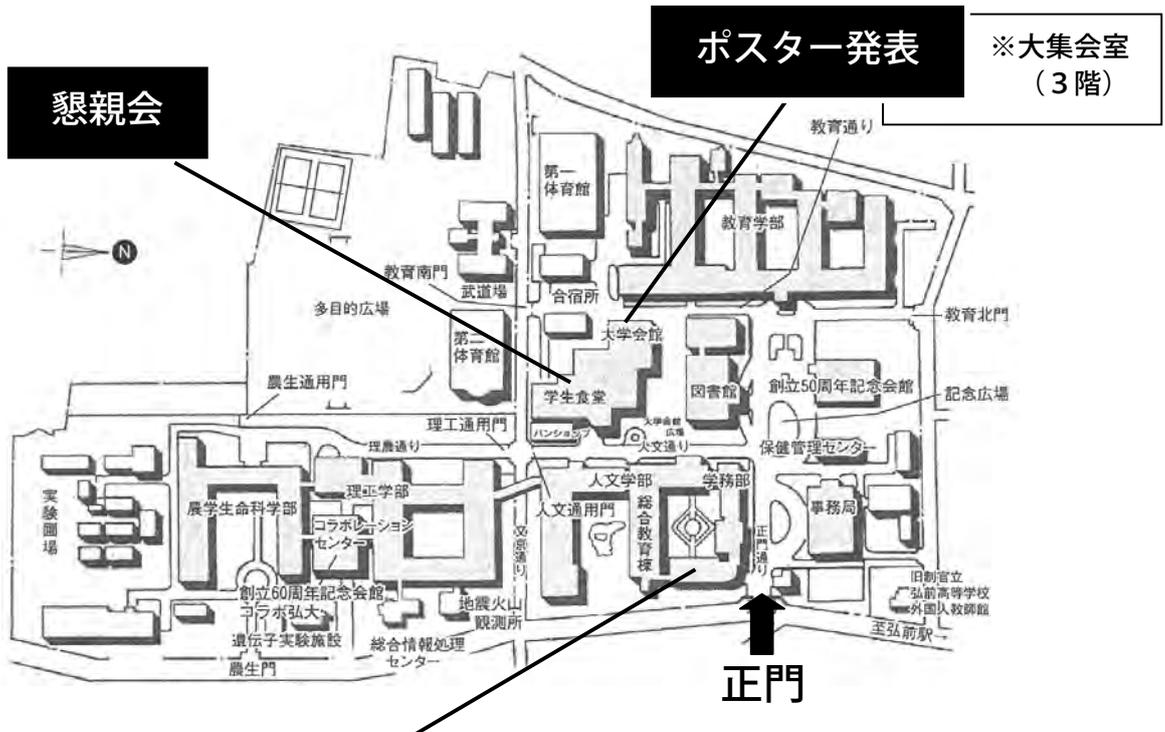
コメンテーター：竹垣 毅（長崎大水産）・小北智之（福井県立大）・安房田智司（新潟大理臨海）

- 1 10:00～10:15 趣旨説明：魚類をモデルとした行動生態学  
安房田智司（新潟大理臨海）
- 2 10:15～10:45 ヨウジウオ科魚類の配偶システムと性淘汰～観察と実験と，時々，ラボワーク～  
曾我部篤（広島大生物圏）
- 3 10:45～11:15 ロウソクギンボ雄の配偶成功に偏りをもたらすもの～ホルモンに依存した  
繁殖 Phase と雌の非独立型配偶者選択～  
松本有記雄（長崎大院生産科学）
- 4 11:15～11:45 卵胎生魚類での性淘汰研究～グッピーにおける配偶前後での繁殖戦略～  
佐藤 綾（東学芸大）
- 11:45～13:00 休憩（昼食）
- 5 13:00～13:30 魚類の托卵における宿主と托卵者の繁殖戦略と種間相互作用  
山根英征・渡辺勝敏（京大院理）・長田芳和（大教大教育）
- 6 13:30～14:00 協同繁殖シクリッドの配偶と子育てをめぐる個体間の駆け引き  
安房田智司（新潟大理臨海）
- 7 14:00～14:30 受精をめぐる競争：繁殖戦術が多様化したシクリッドの場合  
太田和孝（京大理）
- 8 14:30～15:00 捕食被食関係に影響を及ぼすシクリッドの左右性  
竹内勇一（名大理）
- 15:00～15:10 休憩
- 9 15:10～16:00 総合討論  
司会：桑村哲生，コメンテーター：竹垣 毅・小北智之・安房田智司

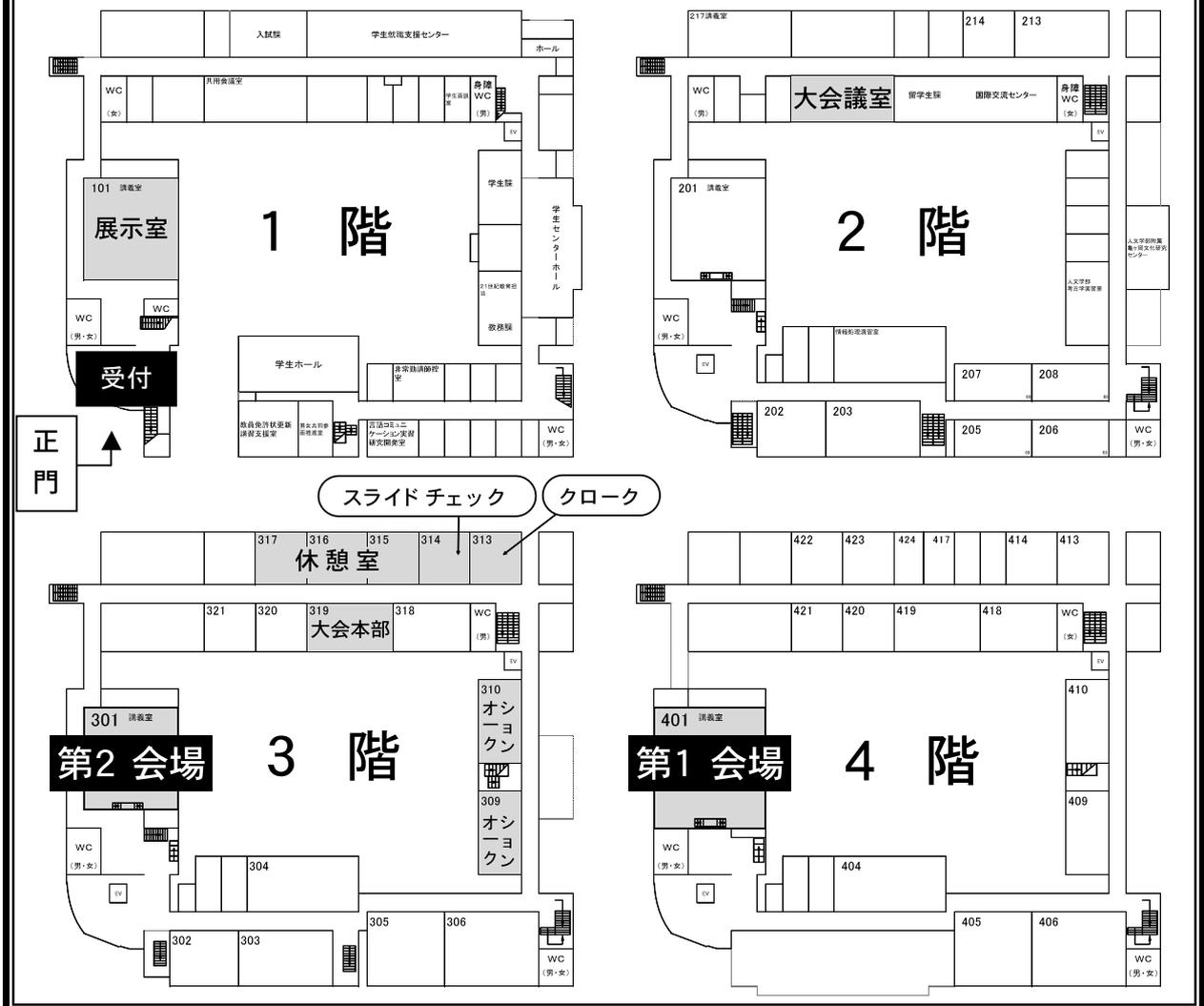
## プログラムの趣旨

行動生態学は、適応進化の結果として動物行動を理解しようとする学問である。魚類をモデルとした研究は、この分野において重要な役割を果たしてきたが、大きな理由が二つ挙げられる。一つは、魚類生態の多様性である。魚類は、脊椎動物のなかで最も生態が多様化してきた動物であり、行動生態学の研究テーマの宝庫であると言える。もう一つは、研究対象としての扱いやすさである。小型の魚類であれば、野外での行動観察が比較的容易である。また、水槽での操作実験も容易に行える種が多い。近年は、遺伝・生理学的手法の発展から、行動生態学と他分野の融合により、この学問のさらなる発展が見られる。また、急速に自然が失われ、絶滅危惧種の増加や水産有用魚種の個体数減少が起こるなか、行動生態学が保全や水産に果たす役割も大きい。しかし、我が国の魚類学においては、行動生態学の重要性がまだ十分に認識されておらず、分野間での融合研究も少ないと思われる。本シンポジウムでは、魚類行動生態学の最前線で活躍する若手研究者を招き、様々な水域に適応した魚類における最新の研究成果を紹介する。最後に、新しい研究・解析手法が次々と開発される中、今後、魚類をモデルとした行動生態学の展望について考えてみたい。

# 会場配置図 (弘前大学 文京町キャンパス)



## 総合教育棟 拡大図



# 2011年度日本魚類学会年会 会場へのアクセス



## J R 弘前駅から

徒歩の場合.....約20分

タクシーを利用する場合.....約5分

バスを利用する場合.....約15分

駅前【3番のりば】から、「小栗山・狼森線」又は「学園町線」に乗車し、  
【弘前大学前】又は【弘大農学生命科学部前】下車。

## 弘前バスターミナルから

徒歩の場合.....約20分

タクシーを利用する場合.....約5分

バスを利用する場合.....約15分

【バスターミナル前のりば】「小栗山・狼森線」又は「学園町線」に乗車し、  
【弘前大学前】又は【弘大農学生命科学部前】下車。